

経済産業部

「元気をだせ! 地域の顔」

中心市街地活性化の取組について

はじめに

中心市街地は、「暮らしの広場」であり、「地域の顔」とも言われていますが、全国的には空洞化という問題が深刻化しています。

こうした中、中心市街地の活性化に取り組む市町村などを支援するため、平成十年に中心市街地活性化法が施行され、現在、県内では同法に基づき、※八つの市町が基本計画を策定し、さらに六つの街づくり機関※(TMO)が認定されるなど、事業実施が本格化しつつある段階にあります。しかしながら、県内の状況をみると、積極的な取組を展開している地域もあれば、計画は策定したもの、具体的な事業が進んでいない地域も多くみられます。

経済産業部では、このような状況を踏まえ、今年度は、中心市街地活性化の取組を強化することとしました。

中心市街地活性化の取組

一、中心市街地活性化シンポジウムの開催

昨年度から中心市街地活性化についての普及啓発を図りTMO活動の推進を図るためのシンポジウムを開催しています。今年度は、TMOが抱える資金、地域の合意形成等の諸問題についてさらに深く掘り下げ、その改善策を探る観点から石垣市、沖縄市において開催することとしました。



シンポジウム開催状況

二、沖縄地区中心市街地活性化連絡会議の設置

県内の基本計画策定市町及び関係機関が情報交換を行う場として、「沖縄地区中心市街地活性化連絡会議」を立上げ、去る十一月二十日に第一回の連絡会議を開催しました。

本会議の設置により、今後、関係機関相互の連携・協力体制

去る十二月三日に石垣市で開催したシンポジウムにおいて

は、TMOの役割に関する基調講演やTMOの先進事例が報告されました。さらに、「港をゲートとしたまちづくり」と題したパネルディスカッションでは、パネラーからまちづくりのアイデアが披露されるとともに、石垣市の中心市街地活性化の方策について活発な意見交換が行われました。石垣市では、本シンポジウムを契機にまちづくりの気運が高まりつつあります。

おわりに

今後、中心市街地の活性化を進めていくためには、地方公共団体、TMO、事業者等がそれぞれの役割を果たしていくことが重要です。当局としては、引き続き積極的に取り組む地域を支援していきます。

が確立され、中心市街地活性化の総合的かつ一体的な推進が図られるものと期待されます。



石垣市中心市街地にある「あやばにモール」

※県内の基本計画策定市町村…宜野湾市、那覇市、石垣市、沖縄市、平良市、具志川市、与那原町、嘉手納町。
※TMO…中心市街地における商業集積の一体的かつ計画的な整備を企画・調整・実施する機関(市町村により認定された商工会、商工会議所または第三セクター)。